

平成29年度 第2回瑞浪市化石博物館協議会議事録

日 時 平成29年10月3日(火)
10時00分～11時30分
会 場 瑞浪市化石博物館
レクチャールーム
出席者 <協議会委員>
大路樹生・渡辺基文・棚橋和代
中山京三

<事務局>
工藤嘉高・安藤佑介

1. あいさつ

大路委員が開会の挨拶を行った。

2. 報告事項

平成29年度事業中間報告について

●企画展の開催について(レジメ1ページ)

委 員：博物館単独で行った展示会は歴史あるものなので、展示会の記録を公開してほしい。たとえば名古屋大学博物館では企画展資料のバックナンバーを公開している。

事務局：今後ホームページでリーフレットやチラシを公開していく。また、展示会の様子も撮影し、公開していく。

委 員：特別展はもう行わないのか。

事務局：大規模に行く場合は「特別展」という表記にする予定である。

●研究報告の発行について(レジメ4ページ)

委 員：特別号として出版するのか、抜き刷りの状態で出版するのか。

事務局：通常の研究報告として出版し、中に特集ページを組む。

委 員：せっかくの特集であるため、この号もしくは抜き刷りだけでも販売しないのか。

事務局：市内の学校や図書館用に作るため販売する予定はない。一般には、ホームページ上に電子媒体で公開する。

委 員：1校に1冊なのか。北中学校には複数冊おいてはどうか。

事務局：図書館の郷土史コーナーには3冊ほど、学校には学級文庫に置く。

3. 協議事項

平成30年度事業計画について

●企画展の開催について（レジメ7ページ）

委員：鉱物をテーマにするのはよいが、近隣には鉱物を展示する博物館が多いので差別化を図れるのか。別のテーマでできないのか。

事務局：鉱物によって置換された化石（月のおさがりなど）も展示して差別化を図りたい。難しい場合は別のテーマを模索する。

委員：他の博物館などと連携できないか。

事務局：チラシを置くなど情報共有したい。また、3月～5月に開催する企画展については、岐阜新聞の後援をとりつけたい。

●講座等の開催（レジメ7、8ページ）

委員：化石を使ったアクセサリー作りは化石の見方が変わる、子供も喜ぶ内容であるのでぜひやってほしい。

事務局：新しい講座であるので、材料の調達など手探りになる可能性もあるが、実施したい。

委員：出前授業について、校長会や教頭会もよいが、可能であれば市内の理科研究会や教務主任の先生に宣伝してみるのがいい。色々なルートから宣伝してみてもいいか。

事務局：教育研究所などに問い合わせ、相談してみる。可能であれば学芸員が向き、広報したい。

●展示資料等の購入（レジメ11ページ）

委員：北中学校の化石については地元の化石が再び注目されるきっかけとなり、博物館としても前面に押し出し、工夫してコーナーを充実させてほしい。

事務局：注目すべき展示の一つとして来年に導入したい。また、展示室には動的なコーナーが少ないので、デジタルサイネージを導入するなど工夫する。